

2月7日 学校薬剤師による 空気検査を行いました

学校という施設は、多くの専門家たちに支えられています。そのうちのひとつが、学校薬剤師による空気検査です。この日、本校学校薬剤師の水野先生にお越しいただき、生徒たちの教室を中心として空気の検査を行いました。

今シーズン最高の冷え込みとなったこの日は、多くの教室で冷気が入らないように窓を閉め、エアコンを運転させました。どの学級も同じ環境のように思えても、ちょっとしたことで違いが生まれます。



「やはり寒い教室は換気ができているので、二酸化炭素の濃度も高くありません。しかし、暖かいなと思う教室は換気が不十分なので、二酸化炭素の濃度も高くなります。」

授業中の教室に入り、CO₂濃度を測定する水野先生

水野先生はこのように話されました。

暖房と換気のバランスが大きな課題です。寒いのはだれもが好みません。だからと言って、窓を閉め切っているのは空気が汚れる一方です。二酸化炭素濃度が高くなれば、学習効率にも影響が出ます。とても難しい問題です。

来年度は、環境に対して生徒が主体的に動くことができるようにする学校を目指します。「暑くなりすぎだから温度を下げよう」「換気窓を広く開けよう」などと、生徒が自分で気づいて、自分で考え、自分で実践できるようにします。これが「スーパーエコスクール」の機能を有する瑞浪北中学校の使命です。エコパネルなどを利用して、冷静に生活が見つめられ、的確に環境づくりができる学校にしていきましょう。